

# 文教厚生常任委員会報告書

平成26年2月27日

委員長 芝尾 郁恵

文教厚生委員会に議会閉会中の調査事項として付託を受けておりました事項について、調査の概要を報告いたします。調査に際しましては、平成26年2月6日と7日に、関係部課長に出席を求め委員会を開催いたしました。

## 保健福祉部 隣保館

ひだまりパスポートとして、市内小学生を対象に、冬休み春休み期間の5日間、九州大学の留学生などを指導員に、国際交流事業を開始した。12月25、26日は、参加児童60人でシンガポール、ドイツの言葉、文化、試食しながら食文化等を学んだ。生き生き音楽校の受講者に、肺活量測定を行ったところ、多くの受講者の肺活量が増加し効果があった。就労サポート事業は現在まで、就労達成者がここ数年で1番多い17名となった。第3次スタンドアローン支援事業は、1月14日から3月30日まで開催、参加生徒52人中28人が何らかの支援が必要な生徒。第2回ひだまり館まつりを2月16日に開催予定等の報告がありました。

委員より、就労サポート受講者の女性の割合と講座終了後のフォローについての問いに、就労サポート受講者の約8割が女性、直近の初級パソコン講座は10名全て女性、講座終了後も職員で対応出来る部分はサポートしている。スタンドアローン参加生徒の高校進学の結果の問いに、参加生徒は昨年度、全員希望する学校に進学出来た。今年度もきめ細やかに支援したい。

## 介護支援課

高齢化率は前年比1.29ポイント増の21.28%となった。要介護、要支援認定者数は前年比114人増の1,851人で認定者率14.34%となった。平成27年度から29年度にかけて、高齢者福祉に関する基礎調査、要介護認定者アンケート、介護支援専門員ケアマネジャーアンケートを実施する。高齢者福祉に関する基礎調査は、どこにどのような支援を必要としている方がどの程度生活しているかを把握、分析するため、国指定の設問が96問、市独自の設問5問、調査対象者は要介護認定者を除く第1号被保険者で総配布数約3,000件を予定。要介護認定者アンケートは配布数約1,000件を予定。介護支援課、予防健診課、生涯学習推進課共同で開催した健康づくりステップアップ講座は、受講生60人で1月22日に全7回が終了した。アンケートでは、57%の方が今回の講座の内容を地域等のために活かしたいと回答した。市民後見人養成に取り組む前段階として2月27日に講座を開催予定。いきいきセンターゆいの活用について、火曜、木曜のデイ開催を目標に、できることから始めている。

委員より、介護認定が厳しくなったとの声があがっていないか。認知症サポーター養成講座では徘徊高齢者の声かけ見守り方にも取り組んでいるか、また徘徊高齢者をメールで探すシステムを総務課と連携し早急に等の問いに、介護認定が厳しいとの声を頂き、県内のデータと比較したが古賀市が突出して非該当を出しているということではなかった。大人向けの認知症サポーター養成講座では、徘徊高齢者への声かけ方をしているが、ジュニアサポーター講座ではしていない。徘徊者検索は防災メールで対応できると思うが、今後、総務課と協議し検討する。

## 福祉課

災害時要援護者同意者は3,423人同意率76.6%となった。個別計画書が策定されている自主防災組織19行政区中、16区で安心安全キットを配布。新原地区の防災訓練は2月23日ひだまり館で実施予定。障がい者の社会参加に力を入れる目的で、12月26日に古賀市の連携会議に

において、就労部会を立ち上げた。メンバーは、古賀市生活支援センター、福祉サービス事業者、民間企業など約 19 事業者。就労チーム、商品開発チーム、農業チームに分かれ、グループワークなど月 1 回開催し、障害者が安心して働き続けられる環境整備などを推進する。前回、職場体験した 1 人が市内の企業に就職できた。生活保護受給世帯は 474 世帯で、4 月以降ほぼ横ばいの状態。消費税引き上げに伴い低所得者対策として支給される臨時福祉給付金について、対象者は 12,000 人程度見込んでいる。

**委員**より、就労部会の立ち上げでネットワークづくりができ、期待するが商工会がはいっていない理由はの問いに、就労部会ということで、まずは、障がい者が実際、就労し了解を得られた 19 事業所に参加して頂いている。

### 予防健診課

平成 28 年度から開始予定の食育推進計画を、ヘルスアップぷらん、特定健診の実施計画とあわせ平成 30 年度からに変更したい。現在、計画期間のずれでそれぞれに計画のための医療費分析や実態調査を行うなど効率が悪い状況にある、計画期間をそろえ同じ実態、同じ目標のもと施策を推進し評価することで相互に効果がでると考える。食育推進計画の策定を 2 年遅らすことになるが、その期間、食育の大切さを市民全体に啓発するため食育ガイドブックの作成や、保育所や学校などが取り組んでいる食育活動の把握、予防健診課が連携できるものなど考える。特定健診受診率は 24.2%で県内 51 位、60 代、70 代の受診者の伸びが悪い。受診率向上に向け平成 26 年度は、医療機関での自己負担額を集団検診と同額の 1,000 円に減額、がん検診は生活保護、非課税世帯は無料、オプションで前立腺がん、心電図なども受けることが出来るようにした。平成 24 年度の 3 歳児健診受診率は県内 1 位、1 歳半健診は 2 位、就学前受診は 99.8%と良い評価を受けている。古賀市の児童虐待の防止の取り組みが NHK で放映された。

**委員**より、マスタープラン策定時に示された年度が大きく変わる事に疑問があるが、平成 30 年度から食育を含めた健康づくりをよりパワーアップする事が大前提での計画であると期待したい。食育の推進は予防健診課、子育て支援課、学校教育課との連携が重要。どう考えているかの問いに、関係課が不定期ではあるが元気な人づくり検討委員会で連携、昨年度、農林振興課、給食センターも加え協議できるよう体制も拡大した。

### 子育て支援課

保育所入所者数は定員 970 名に対し、1,146 名で定員充足率は 118.14%。昨年同月比 48 人増で依然として入所希望者は多い。4 月の久保保育所の移譲に向け、3 月から久保の職員と移譲先の職員による合同保育を行い無理のない引き継ぎを行う。古賀市子ども・子育て会議の第 5 回目を 3 月上旬に開催予定、次世代育成支援後期行動計画の評価について知らせる。

市内 3 中学校で余裕スペースを利用しての子育てサロンを実施予定。就学前の親子の居場所づくりと次世代の親となる中学生が乳幼児とふれあうことで命の大切さを実感してもらう大きな意味合いのある事業。2 月末から 3 月上旬にかけてふくつ子どもステーション“すてっぷ”と古賀新宮子ども劇場が連携し試験的に実施する。

**委員**より、認可保育所の開園までの流れとして、子ども子育て会議にはいつの時点で報告をするかの問いに、今回の教訓として、社会福祉法人の設立許可の申請書が市に提出された時点、また直接県に認可申請する株式会社等の場合は、意見書の提出が求められた段階で、会議に諮るのがよいのではと考える。イクメン道場は遊び中心の内容が多いがお母さんをサポートしてくれるような情報も必要ではの問いに、現在は遊びながら育児の入り口付近を行っている。アンケートでもお風呂の入れ方などの希望もある。来年度以降の講座の組立ての参考にする。

## 青少年育成課

少年指導員を中心にまつり古賀で、地域つながりあいさつ運動の啓発活動を行った。若者ボランティアの支援として、ボランティアグループ若葉の小野校区「野幸山幸おのまつり」の出店参加を支援。1月には、高速下のトンネル内の落書きを、東中学校生と合同で消す作業を行う支援をした。子ども育成活動として、11月24日第13回子どもわくわくフェスタを開催、来場者約2,100人、例年課題となっているホールの観客もスタンプラリーなどが功を奏し常時150から200人が鑑賞。青少年育成市民会議主催の少年少女の主張作文の表彰、発表を2月15日議場で開催予定。優秀賞10名が作文を発表する。

委員より、遊技施設への子どもの出入り等の調査結果の問いに、11月に立ち入り調査し、深夜は県の条例より厳しい体制で臨んでいる事を確認したが、子どもだけの利用については、規制は難しい、家庭教育が重要。児童館、児童センターのスタッフの選出、内訳と研修についての問いに、児童館は保育士、児童センターは4人の臨時職員中1人は保育士、若者の対応ができる明るい方を人選。定期研修はしていない。

## 教育総務課

仮称古賀市生涯学習センター及び周辺施設整備事業の基本設計が完成、概要説明を受けた。3階建てで、現研修棟の約1.5倍、床面積約3,800平米、総工費約15億円、安全、安心、省エネ、省コストなつくりとし誰もが利用しやすいユニバーサルデザインとする事で、世代を超え長く使える施設をめざす、平成28年10月頃グランドオープン予定。

委員より、研修棟、ホール棟、サンフレアこがが、連絡通路で繋がったが、それぞれ開館閉館時間が異なるがどうなるとの問いに、出来るだけ一体化することを念頭に、調整しているが、リーパスに合わせ図書館をいきなり10時まで開館するまでは至らないと思うが、少し延ばすことも含め検討する。多目的ホールで、コンサートや演劇ができるように運用面を検討してはの問いに、大ホールは、公民館という縛りで制限がある、仮称生涯学習センターは、市民がより利用しやすいよう条例、規則等、考慮していく。また、せっかく作る建物なので、出来るだけ市の木材を使用してほしいとの意見がでました。

## 学校教育課

市内小中学校の不登校児童生徒が、昨年より増加傾向にある。中学校区ごとに3カ月に1回開催の要保護ネットワーク会議等で改善策を協議、解消に向け努力している。保護者にスクールソーシャルワーカーが粘り強くかわり、不登校の2年生14人中10人が修学旅行に参加できた。安全適正な学童運営を図るため花鶴学童を増級予定。12月に千鳥、花見、舞の里小学校の6年生が、古賀北中学校に一日体験入学し、授業、給食、部活等丸ごと体験する新しい取り組みを行った。2月1日、食育推進事業の一環として古賀東中学校区で食育フェアを開催、小学生の親子料理教室や講演会を行った。その他、古賀北中学校が図書館を使った調べるコンクールにおいて馬具についての研究で、全国優秀賞受賞など、各小中学校でも多くの表彰受賞を受けたこと。ドリームステージの接遇マナー研修などが、小中をつないだキャリア教育の実践と評価され、教育委員会として、文部科学大臣賞を受賞した。また、先生方も教育論文で優秀賞を受賞するなど沢山の嬉しい報告がありました。

委員より、学童保育指導者のスキル向上に向け、資格取得のための研修も必要では現状はとの問いに、任意で行ってる研修は把握していないが、市主催の研修を年に1回開催。今後も指導員の力量向上に向け取り組む。中学3年生の不登校児の進路、対応についての問いに、約20名弱の不登校生徒には、それぞれの発達段階を見て、入学後も続けられるような進路指導をし

ており、全員が進学を希望。中途退学者の問題も、関係者と情報を共有し対策を検討したい。

### 生涯学習推進課

1月12日、実行委員会形式による成人式を開催。新成人607人のうち549人が出席、恩師17人などを含む630人の参加があった。市民講座として、初めて古賀中学校を会場に大人の寺子屋を開催、先生方から授業を受け好評だった。参加促進講座として11月の家族の月間に併せて映画会を開催80家族280人の参加があった。第2次生涯学習基本計画は今年度中に完成させる。スポーツ支援事業として年間2回の駅伝大会を開催。第41回成人式駅伝大会は過去最高の65チームがエントリーし、8人の新成人を含む527人が参加、1000人以上の市民が集い交流できた。古賀市の魅力を伝える事を目的とした4回目の「古賀をあるこう」を3月21日に開催予定。船原古墳を見下ろすポイントを置くなど話題性の高い内容となっている。クロスパルこがの利用者数は、パワフルキッズなど新たな取り組みも好評で、着実に伸びている。消費税増に伴い4月より会費の値上げを予定。

委員より、成人式が年々荒れてきた感がある、充実した成人式を次年度行う見通しについての問いに、元気のよい子たちも含め、かなりの方が途中退席し、実行委員も悲しんだ。実行委員会形式を保ちつつ、反省も含め中身の部分の検討も必要と思っている。

また、委員よりクロスパルこがは、建設当時の趣旨を忘れず、どうすれば障がい者がより利用しやすい施設になるか模索してほしいとの意見がでました。

### サンフレアこが

船原古墳遺物埋納抗発掘調査は現在も続行中で、金属製品、弓などの遺物の取り上げ作業は11月中旬に完了。埋納抗周辺の関連遺構の調査は2月中に終了見込みで、埋め戻し工事が3月末に完了予定。九州歴史資料館での、総個体数200点を超える遺物のエックス線CTスキャナー撮影が間もなく終了予定。金銅製歩揺付飾金具がCGで復元され、NHKのクローズアップ現代等で報道され話題となった。老朽化が進んでいた文化財収蔵庫外壁工事を実施中。図書館まつりを10月25日から11月3日まで開催、読書講演会、大人のおはなし会など、期間中、合計7,628名の来館者があり、図書館の楽しさや読書への関心を広められた。2月1日第45回親子読書のつどいを開催、360人の参加があった等の報告がありました。

委員より、発掘された金銅製の装飾金具のレプリカなどの展示や市が発信できるイベントの考えはの問いに、来年度は埋納抗に関する企画展のようなものを計画したい。

### 給食センター

地元農産物の使用状況は、小松菜、水菜、みかん、米などを中心に、昨年度より約1ポイント増の55.1%となった。食器の破損状況は、学校での指導、洗浄機の整備など功を奏し全体で1,481枚、破損率は前年に比べ1.9ポイント減の8%となった。2月1日開催の食育フェアにおいて、各小学校から優秀作品3点、計24点の絵が表彰され、食育を推進するための動く広告塔として、配送車にラッピングされ市内を走り好評を得ている。

委員より、懸案事項の年度末、連続してお弁当になる問題の見通しはの問いに、昨年度は201回提供、センターとして回数増は、問題ない。校長会での話し合いとなる。今年度は連続で給食が出ないことはない考える。食育について、予防健診課との連携をどう考えているかの問いに、よりよい食育プランを作り上げるため関係各課、基礎固めの協議をしている状況。好評のラッピング車の耐久年数、更新計画はの問いに耐久年数は5年間だが、2年間での更新を計画、新しい絵を募集する等の回答がありました。

以上、議会閉会中の調査事項として、付託を受けておりました調査の概要報告を終わります。